

(平成27年8月25日)



9月の鳥獣被害対策



福島県農林水産部農業振興課

9月以降は、新たにソバやリンゴなどの鳥獣被害が増加してきます。

昨年、被害が確認されているほ場では、今年も被害に遭う可能性があります。あらかじめほ場周辺の藪を刈り払ったり、防護柵を設置するなど早めの対応を心がけましょう。

1 ソバの被害対策

ソバは花盛りを過ぎたところからイノシシ、ツキノワグマなどの獣が加害します。

林縁部のほ場は、林縁部と隣接した箇所の刈り払いを行い見通しを良くするとともに、獣の痕跡が認められる場合は、ほ場周囲に電気さくを設置しましょう。

イノシシの痕跡が認められる場合は、ほ場周囲に電気さくを地面から**20cm間隔で2段**（各段ともプラス通電）設置しましょう。

ツキノワグマの場合は、地面から**20cm間隔で3段**（各段ともプラス通電）設置しましょう。

2 リンゴの被害対策

リンゴは収穫期が近づくと鳥獣被害が増加してきます。今後、晩生種の収穫が終わる12月上旬頃まで注意が必要です。

(1) ニホンザル対策

サルは群れで行動することから加害頭数が多く、被害が大きくなりがちです。

まず、電気さくやネット柵を設置してほ場内へ容易に侵入できないようにしましょう。

電気さくを設置する場合は、地面からまず15cmに1段、次いで20cm間隔で7段、計8段張ることが基本となります。

1段目を地面から15cmとするのは幼獣の地際からの侵入を防ぐためです。また、各ワイヤーの通電は地面から3、5、7段目がマイナス、そのほかはプラス通電とします。

しかし、サルは工夫して侵入する個体が現れると、学習能力が高いことからそれをまねて複数の個体が侵入するようになります。電気柵を張っても被害が見られる場合は、サルの行動に応じた工夫が必要になります。

これまで県内では、支柱の通電していない部分を握りながら登って侵入した例や飛び込んで無理に侵入した例があります。そのような場合は支柱に沿って縦に同じ電極の段を1箇所繋いだり（例：4段目と6段目のプラス通電、または3段目と5段目のマイナス通電のいずれかを繋ぐ）支柱を活用し柵のすぐ内側にネットを張るなどの工夫が必要になってきます。ネットを使用する場合は白い防風ネットが有効です。これは、サルが

視覚で加害する農作物を認識することから、白い防風ネットでは柵の中が見えにくくなるため有効です。ネットの目合いは10mm前後で効果が見られます。ネットを併用する場合、ネットを結束する支柱は十分強度のあるものを用いてください。枝受支柱や矮台支柱などを用いることも可能です。

ネット柵は「猿落くん」 (<http://www.pref.nara.jp/secure/42364/34-39enraku.pdf>) などが開発されており、侵入に時間がかかるため追い払いとの併用で効果が高まります。

サルは活動時間はおおよそ日の出から日の入りまでで、夜間は行動しません。

(2) イノシシ対策

イノシシは高さ1m程度まで結実している実を直接食べたり、枝を啜って折るなどして実を食べます。枝が折られると翌年の生産にも影響することから早めの対策が必要です。

イノシシの痕跡が認められる場合は、ほ場周囲に電気さくを地面から20cm間隔で2段（各段ともプラス通電）設置しましょう。

(3) ツキノワグマ対策

ツキノワグマの痕跡が認められる場合は、ほ場周囲に電気さくを地面から20cm間隔で3段（各段ともプラス通電）設置しましょう。

また、ツキノワグマが生息する地域では、人身被害を回避するため早朝や夕暮れ時に林縁部の畑で作業することは避けましょう。特に、これまで、農作物被害が発生したり痕跡のあった農地周辺は危険です。やむを得ず作業しなければならない場合は、クマの潜んでいそうな場所に向けて追い払い用の花火を打ち上げたり、鈴を鳴らすなどしてから作業を始めましょう。

なお、降雨や霧が発生している時は、明るい時間帯でも出沒する可能性が高まります。クマは、決して夜行性ではありません。

(4) ハクビシン対策

ハクビシン被害の特徴は、果実上部が樹体に残っていたり、樹木のそばに糞があった場合などは、ハクビシンによる被害の可能性があります。

ハクビシンの痕跡が認められる場合は、まず、ほ場周囲に電気さくを設置しましょう。電気さくは地面から10cm間隔で3段（各段ともプラス通電）張り、柵の内側に支柱を利用しネットを設置すると飛び込みなど無理な侵入が少なくなり被害がより軽減できます。ネットは野菜誘因用のネットや漁網などの再利用品で十分です。

ハクビシンなど登ることが得意な獣種は、特性を逆手に取ったネットと電気さくを組み合わせた防護柵「白落くん」や「楽落くん」 (<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/cyoujyuu-tantou.html>) を活用すると侵入防止効果が高まります。なお、「白落くん」や「楽落くん」を設置する場合は、ネットが破損していないことやネットと地面との間に隙間をなくすことが大切です。

ハクビシンなどの中型獣は、被害ほ場周辺の廃屋や神社仏閣、住宅や倉庫の屋根裏、

野積みされた樹木などの中を寝屋としていることも多く、その解消も重要です。

3 共通対策

各獣種とも集落ぐるみで藪の刈り払いを行い、農地周辺に獣が潜む場所をなくしましょう。また、生ゴミや収穫残渣は穴を掘って埋めるなど、むやみに捨てることはやめましよう。ほ場を防護柵で囲っても、生ゴミや収穫残渣を容易に食べることができれば野生鳥獣は集落周りに住み続けます。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>